

楽報新聞

第201号
R5, 10月

発行人
医療法人社団 すんとおる

皆さんはハロウィンで仮装をするのか

ご存知ですか? 魔女や悪霊は人間の元気を奪うと信じ

られているため、悪霊たちに自分が人間だと気づかれて悪さを

されない様に「同じ悪霊です!!」とアピールするために恐ろしい

仮装をするんだそうです。可愛い仮装は悪霊に悪さを

されてしまうので、皆さん、ご注意ください!!

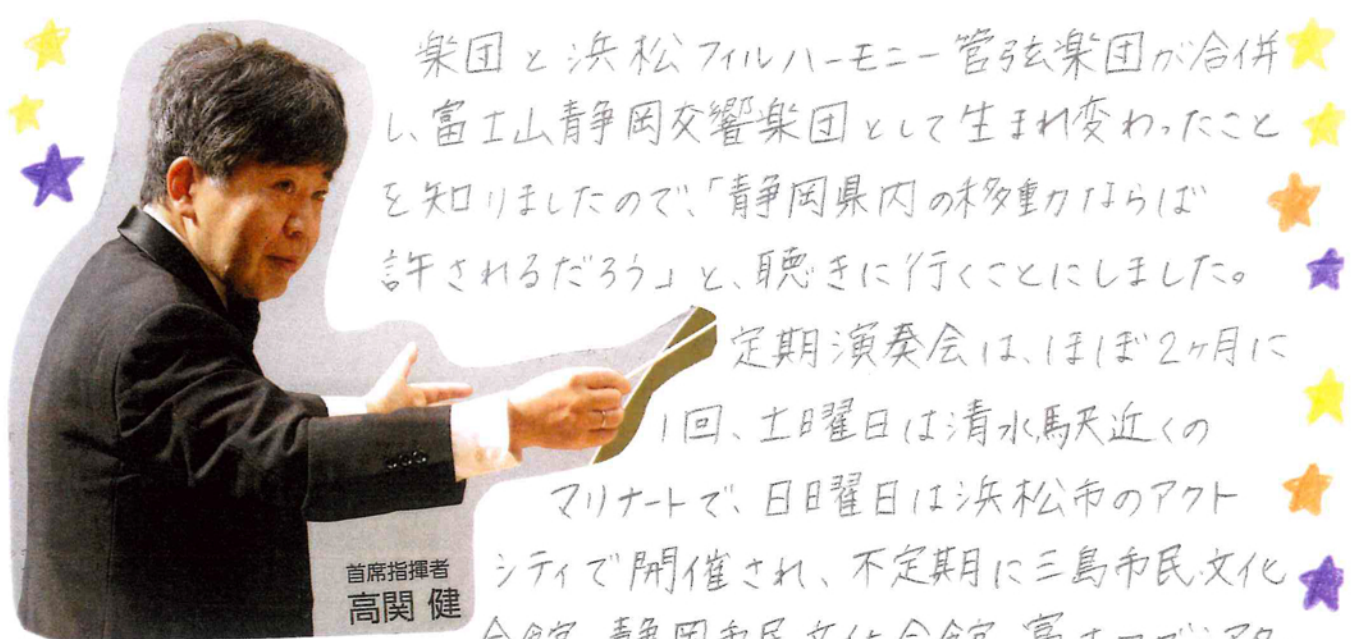
さて今月号は院長の秋を感じるお話です。

芸術の秋 院長 清水学

新型コロナウイルスによる感染症が全世界を馬鹿然とさせてから3年以上経過しました。ウイルスは変異を繰り返し、未だに感染を引き起こしている様です。手洗い、うがい、マスク、エチケット等を励行し、ワクチンを接種して、未然に防いでいくのが一番でしょう。

今回のパンデミックでは「県境をまたいだ移動の禁止」が特徴的でした。「緩やかな封鎖」ですね。その状況下で余暇として何が許されるのか?

色々考えましたが、コンサートに通って音楽の生演奏に浸る事に考えに至りました。ちょうど静岡交響



楽団と浜松フィルハーモニー管弦楽団が合併し、富士山静岡交響楽団として生まれ変わったことを知りましたので、「静岡県内の移動がほぼ許されるだろう」と、聴きに行くことにしました。

定期演奏会は、ほぼ2ヶ月に1回、土曜日は清水馬場近くの

マリナートで、日曜日は浜松市のアクティビティで開催され、不定期に三島市民文化会館、静岡市民文化会館、富士ロゼシアター

等で開催されます。その他、街角コンサート、学校出張コンサートなど、色々と工夫して活動している様です。

主席指揮者は高関健さん。日本全国の首席指揮者を歴任され、東京芸大教授を務めたという字石月氏です。

演奏に際し、今でも「譜読み」(総譜の研究)を欠かさないと言うから驚きです。ここ1、2年で富士山静岡交響楽団がレベルアップしたと評判です。

芸術の秋、音楽が心地よく響きわたる季節となりました。たまには生演奏に接するのも良い試みだと思います。地元のお客を聴き、地元を育て、ついでに街を歩いて、静岡の良さを再発見しましょう。

今月号タイトル本の楽譜、何の曲かわかりますか? ヒントは、ちょっと聞いたことのある有名なクラシックです。答えはウラ



インフルエンザワクチン接種が10月2日～はじまっています! 計画を立てて、早めに打ちましょう!

お知らせ